

国際医療支援センター

■ スタッフ

センター長	笠井裕一
副センター長	豊田秀実
委員	櫻井洋至、山本章貴、 張尔泉、Said Ahmad Shah
アドバイザー	堀浩樹

■ 部門の特色

国際医療支援センターでは、平成 27 年度において、医療機器の寄附活動、国際的な医療講演会の開催、外国人医療者の受け入れ、発展途上国での教育的講演や手術指導、学部間協定の締結、全国国立大学附属病院・病院長会議の国際化ワーキングへの参加などを行いました。

■ 活動実績

1. 整形外科インプラントの寄附

2015 年 4 月 25 日にネパールにて大地震が発生したため、再び全国に呼びかけを行い、眠っているインプラントを収集しました。その結果、スクリューやプレートなど約 1700 万円の寄附（写真 1）が集まり、これらをネパール整形外科学会へ寄贈しました。その後、ベトナム（写真 2）とコンゴ民主主義共和国からも、個別の寄附の要請があり、これらの 2 カ国に対してインプラントを寄贈しました。



写真 1 全国から集まったインプラント



写真 2 ベトナムの病院での寄附の受取

2. 国際的な医療講演会の開催

2015 年 4 月から 2016 年 3 月までに、以下のように、合計 12 回の学内講演会を開催しました。

- 1) 安藤勝彦 先生
「タイ・コンケン大学との交流とこの地域の特徴」
- 2) Said Ahmad Shah 先生
「Medical situation in Afghanistan」
- 3) Aung Ko Oo 先生
「Health in Myanmar」
- 4) 武田多一 先生
「ネパール地震後の医療支援」
- 5) Mohammed Omar Al Salihi 先生
「The Religion of Islam」
- 6) Si Thu 先生
「Myanmar today」
- 7) 松林信幸 先生
「エチオピアの感染症」
- 8) ワキモト隆子 さん
「医療通訳の上手な活用法」
- 9) 斎木都夫 先生
「コンゴ民主共和国とバングラデシュの医療事情」
- 10) 足立基 先生
「Middle East Respiratory Syndrome Coronavirus (MERS-CoV) と WHO 西太平洋事務所 (WPRO)」
- 11) Chollada Suwanachod 先生
「タイの医学教育と女性医師のキャリアアップ」
- 12) Salvador Isidro B. Destura 先生
「Health Emergency Preparedness and

Response:Lessons Learned from Local Government Units (LGU) of Samar & Leyte]

3. 外国人医療者の受け入れと教育

タイ医師1名およびミャンマー看護師（写真3）4名を三重大学に受け入れ、大学や関連病院において、臨床研修をサポートしました。



写真3 ミャンマーの看護師の病院見学

4. 海外での教育的講演や手術指導

センター長の笠井は、ミャンマーに7回（写真4）、タイに2回、中国に1回、ベトナムに1回ずつ赴き、教育的講演や手術指導を行いました。



写真4 新設されたミャンマー脊椎外科病院にて

5. ミャンマーのヤンゴン第二医科大学と学部間協定を締結

2015年10月22日に、ミャンマー連邦共和国のヤンゴン第二医科大学にて、駒田美弘学長をはじめ、笠井らが参加して、三重大学医学部・大学院医学系研究科は、ヤンゴン第二医科大学との間に学部間協定を締結（写真5）

しました。

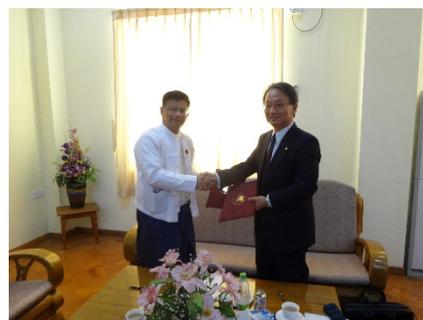


写真5 握手する駒田学長と Aye Aung 学長

6. 全国国立大学附属病院・病院長会議の国際化WGに参加

三重大学が全国国立大学附属病院・病院長会議の国際化ワーキンググループの副担当校となり、伊藤正明病院長が副委員長に就任し、笠井が委員になりました。そして、国立大学附属病院の国際化についてのグランドデザイン作成に携わり、提言と行動計画の策定などを行いました。

http://www.hosp.mie-u.ac.jp/section/bumon/kokusai_iryuu/